

四  
二  
四五

文部省編纂

翻刻  
小學讀本  
卷二

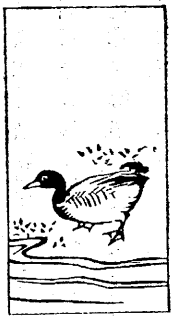
明治七年  
八月改正

積玉圃鉛鐫

大日本教育會總館			
第四室			
四册	号	五架	四函



るを知らずして我子と思ひ悲めるなり」  
 爰に成長したる鷺あり○鷺の嘴は花雞の嘴  
 より大にして其足に蹠あり故に水に入りて  
 能く泳ぐことを得るなり



此の何家なるを知れりや○これは學校なるべし敷多の男女の子此家  
 に通ふを以て知られたり○汝の小兒の遊歩場に出で、遊ふを見たり  
 や○敷多の小兒出て、走るもあり球を弄ふもあり或の紙鳶を揚げ或  
 の輪を廻はして遊べり○男兒も女兒も學校に  
 ての能く勉強すべし○能く勉強したる後に非  
 れば遊歩をゆるさるども誠に樂きことなりな  
 きのなり」  
 今此子の釣りたる魚の鯉なり○汝も魚を釣り  
 得たるときに能く心を用ひよ釣糸を切らる、

ことあるべし○天曇りて雨少しく降り來れり  
 ○魚を釣るに雨天のときを宜しとするか○  
 然り少しく雨降りて風なく暖なる日を宜しと  
 す○汝の魚を釣るを以て宜しき事と思ふか○  
 然り魚を釣りて食するの悪しき事にあらずと  
 雖釣りたる魚を弄びて徒に捨つるの宜しから  
 ず」



男兒と女兒とあり○これの學校へ行く途中なり  
 ○今急ぎて學校に行かんと思ふがゆゑに男兒の  
 女兒を助けて走れり○此兒等の學校に行くを樂  
 と思へりや○然り此兒等の其性善きものなれば  
 學校に行きて學問することを第一の樂と思ふな  
 り」

此馬の柔和なる馬ゆゑ二人の小兒を乗せて歩  
めり○此馬を走ると思ふか○此馬の前の一足  
を舉げてあとの一足を下さんとするを見れば  
走るにあらす徐に歩むなり○前的小兒の手  
綱を両手に持ちたれども其見ゆるに只右の手  
のみなり○後的小兒の馬より落つることを恐  
る、ゆゑに前的小兒を抱きてをれり」



此處の工人の作事場なり○數多の大人の作事を  
事とせり○二人の小兒の此作事場に來り板に乗  
りて遊び戯れ居れり一人の小兒の高く上がり一  
人の低く下がりがたり○汝の小兒の傍にある器を  
何なりと思ふや○これの斧と鋸なり○汝の小  
兒等を善き小兒と思ふか○作事場に來りて遊ぶ

の善き小兒にあらざるべし○今の遊歩すべき時間とい見へず學問  
すべき時間なり○學問すべき時間に作事場に來りて遊び戯れ作事の  
妨をするに必あしき小兒なり○汝等の遊歩のときも作事場に來るべ  
からず遊歩場にて遊ぶべし」

第二

我等の住居する世界の平なるものにあらす實に圓くして球の如きも  
のなり故に世界を地球といふ○此世界の靜なるやうに覺ゆれども實  
に動くものにて毎日一廻づ、旋りて一年に太陽の周りを一旋りするものなり○太陽の圓さも  
のにて世界に光と熱とを與ふるものなり○我等  
晝に太陽を見れども夜に見ることなし○汝夜の  
太陽を見ることを得ざるに何ゆゑなるを知れり



や○夜ハ太陽の方に向はざるゆゑに見ることを得ざるなり○月も亦  
圓きものなれども太陽及地球の如くに大なら  
ず○月の原より光なきものなれども太陽の光  
を受けて始めて輝くものなり」

我等一同に草刈場に出来れり○小兒ハ刈りた  
る草の上に坐し居て草を刈るを觀る○枯草ハ  
柔なる物なれば此上の遊び戯るゝに宜しきな



り○草ハ牛馬の食なりゆゑに牛馬を畜  
ふ家にてハ夏の間に刈りてこれを貯ふ  
狐ハ犬に似たる獸にして頭平に鼻と耳  
との尖りて尾ハ甚長し○此獸ハ穴の中  
に住し晝ハ隠れて出でず夜に入れば穴  
より出でて田畠の傍を遊行す○狐ハ食



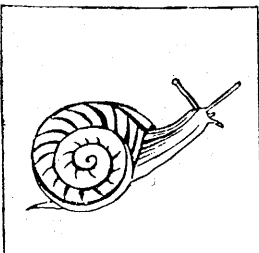
を食る獸にして多く雞の雛を食ひ又好みて桑の實櫻の實等を食ふ○  
雞を捕ふれハ穴に持ち行きてこれを食ふ○もし犬を見るときの穴の  
中に逃げ入りて出づることなし是ハ穴に入らざれば直に犬に噛み殺  
さるゝが故なり

蝸牛といふ蟲は足なきゆゑに歩むこと能はず只  
匍匐するのみなり

この蟲ハ背の上に殻ありて物に恐るゝときハ其

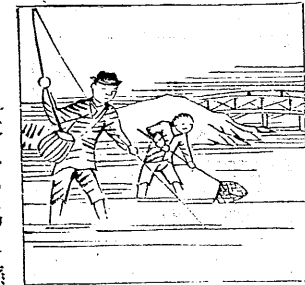


中に縮み入る○蝸牛の動く  
ときハ四本の角を出だす其  
中二本の長き角の先きに目あり短き角の下に口  
あり○此蟲ハ冬ハ土の中に伏し春の至るを待ち  
て出づるなり」



汝ハ此處に男兒と女兒と驢馬の在るを見たりや

○男兒の驢馬に乘らんとす○何如に汝は乗り易かるべしと思ふか○驢馬の小さき馬なれども小兒に乗り難かるべし○遙の向ひに荷車あり○汝の此荷車を何なりと思ふや○遠き處ゆゑに見分くること能はされども畠の小路にあるを見れば穀物を載せたる車なるべし此圖に畫きたるもの何なりや○大人と小兒と二人水中に立てり○此等の何をなすや○此入々の魚を漁するなり大人の釣りたる魚の大きなゆゑに強く曳かば糸の切れんことを恐れて遠に曳き挙げざるなり○男兒の持ちたるものは何なりと思ふや○それの網の類にてたまといふものなり○男兒は此網を以て魚を捕へんとす○大人の脇に懸けたるは何なるぞ○これの蓋のある籠にて其中に魚を入る、なり○此人の立ちたる處の深しと思ふか○入の膝まで水に入らざるを見れば



ば甚深からずもし深水なれば二人とも立つこと能はざるべし○此河に架したる橋あり汝の此橋の何にて造りたると思ふぞ○橋に木と石と鉄との別のあれどもこれの木にて造りたる橋なり  
汝の此男兒を何歳許なりと思ふや○此男兒の十歳以上なり○此男兒の善き人なりと思ふか○否學問をもせず又遊歩をもなさずして休みをもゆるに怠りものと知らる、なり○此男兒の何に倚りて何を見るや○此男兒の倚りたるもの大なる石の柱なり又此男兒の何をも見ず只天をながむるなり ○總て小兒に勉むべき時もあり遊ぶべき時もあり○此小兒の如く常に勉強をなさざるべきの成長の後人に勝ることを得ざるなり」  
爰に又怠惰の小兒あり○彼の學校へ行くに云ひしが何ゆゑに學校へ行かずして途中に遊び居るや○未だ學校へ行くべき時刻來らずや

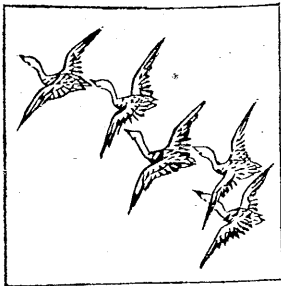




○學校にて既に稽古始まりたれば此小兒も  
 とく行くべき時刻なり○然らば何ゆゑ爰に止  
 まり居るや○彼ハ犬に乗り又他の怠りものと  
 遊ばんと思へばなり○彼の學校に行くものな  
 らば其書をば何處に置きたるや○書をば自分  
 の家に忘れたるなり○されば學校に行きたり  
 ども稽古することを得ず○善き小兒の書を大切に  
 なして學校に行く  
 を好み稽古の時間來れば決して途中にて遊び居る  
 ことなく學校にて  
 も能く勉強して學ぶゆゑに其等級屢進むなり」

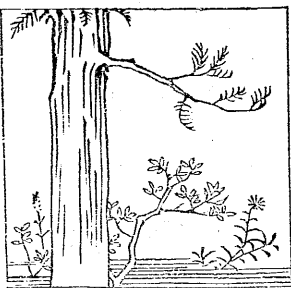
第三

雁の列をなして行く圖あり○見るべし一羽の雁導をなせば其他の雁  
 此これに隨ひて飛行くを○是は何處に行くや○或ハ水邊に行きて葉



の間に息み或ハ田に下りて食物を求めんとす  
 るなり○此鳥ハ冬ハ北より南に來り春に至れ  
 ば又南より北に歸る故に夏ハ此地に居ること  
 なし」

地に生ひ出づる物の草と木とありて木に灌木  
 と喬木とあり○草ハ其幹葉一年限りにて枯る  
 、ものなり灌木ハ高さ一丈に出せずと雖其幹ハ枯れざるものなり○



喬木といふ成長して高大に至るものを云ふ○此  
 三の者を合せて植物と云ふ植物ハ生を保ちて  
 能く成長し又死して枯朽するものなれども人  
 の如くに物を思はず根ハ食物を地下より吸ひ  
 葉ハ能く呼吸すれども鳥獸の如く動くことな  
 し」

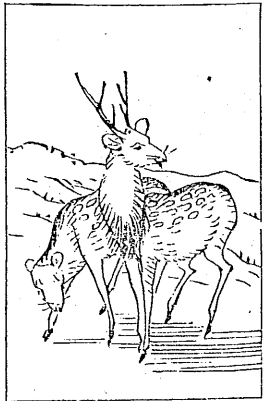
鳥の二つの足と二つの翼ありて多くの空中に  
翔る又水上に住むものもあり○獸類の四足に  
して膚に長さ毛あり○此鳥と獸との身體を意  
に從ひて動かせども人の如く言ふこと能はず  
汝の實のる草木の種類を知れりや○其莢を見  
て豌豆と蠶豆とを知り穂の形を見て稻と麥と  
を知るべし



草木にの皆種子あり豌豆蠶豆の莢の中に在り  
て梨李橙の肉の中に在り○種子の食物となる  
もの稻麥豆黍粟の類なり肉の食物となるも  
の梅桃梨李蜜柑の類なり  
草木の皆種子より生じ濕ひたる土の中に種子  
を置くとさし漸に膨脹して遂に破裂し其所よ

り芽と根とを生ずるなり

鹿の山林に住する獸なりこの獸の牡  
にの枝を生じたる角あり牝にの角な  
し其色の茶褐色にして白き斑あり  
鹿の長き足ありて走ること甚速なり  
○常に草木の葉を食とし或は田野に  
來りて穀物を食することあり此獸の角の堅くして器に造るべく又其



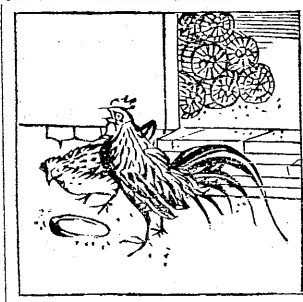
皮の席となすべし

此男兒の悪しき心のものなり汝のこ  
の男兒の持てる帽の中にある物を見  
たるか○これの柿の實なり○此柿の  
實は垣を踰えて隣家より盗み取れる  
なり○今此男兒柿の實を盗み取り垣



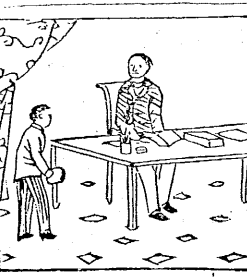
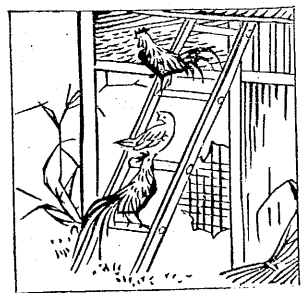


を踏えて出でんとする所を數多の犬どもこれを見て男兒を追ひかけ一匹の犬男兒の裾を咬へたりよりて男兒の垣を踰る去ることを得ず此時盗みたる柿の實を捨てなば犬の裾を放つべけれども此男兒これを捨つること能はず○他人の物を盗むに決して爲まじきことなり善き小兒の自分の物にあらざれば取ることなし○常に行狀の正しきもの幸多く正しからざるもの幸を得ること能はざれば汝等他人のものを見て何如なるものなりとも必これを得んことを欲すること



なかれ  
爰に四箇の雞と穀倉とあり○汝が見る所にてこれのこなりや○否家の後に松あり垣に寄せて立てたる帯あり雞の飲水を入れたる水鉢あり○汝に此鉢に水ありと思ふや○必水あるなるべし○何を以て水のあるを知れる○此鉢

の少し傾きて一邊の縁高く出でたるを以て水のあるを知れり水の傾きたる鉢の中にも決して斜に傾くことなく其表面の必一様に平なるものなり○汝に雞の水を飲むを見しや雞の牛馬の如く首を下げて飲むこと能はずゆゑに一滴口に入れば首を擧げて咽に飲み下だすなり



此處に何如なる所なりや○此處に穀倉の傍なるべし雞の巢に上らんとして梯子を傳ひ行くなり○梯子に横木ありこれの何なりや此横木の梯子の級なり  
汝に雞の巢を見たるか○巢に隠れて擔の裏にあるゆゑ見ることを得ず  
汝此處に來れ汝昨日矢ひたる所の書籍を尋ね得

たりや○否未だ尋ね得ず○汝の文庫の中を捜し見ずや○幾度も捜し見たれども其處にあらす○汝今一度尋ね見に書籍なければ學ぶこと能はず

又汝に筆ありや○筆の命せられたる如く文庫の上に置きたり○汝の筆の用ゐかたを知れりや○否未だ用ゐかたを知らず○汝今其筆を取來れ汝に筆の用ゐ方を教ふべし筆の用ゐかたを知らざれば字を習ふこと能はず

汝の今日學校に行きたりや○學校に行き終日學びて先刻歸り來れり○然らば座に就きて復讀せよ凡て學びたる所をば常に復讀して決して忘るべからず」

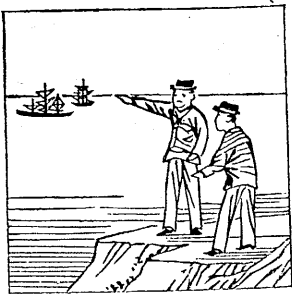
第四

岸の上に二人の少年ありて三艘の船の岸に着くを見居れり○三艘共

に帆を十分に張りて檣の上に旗を揚げたる船なり

一人の少年云ふ我が朋友の去年先きの船に乗りて外國に往きたりしが日を數ふれば其出立せし日より今日まで殆一年に及びて歸り來れり

彼の両親は日々彼の歸るを待てり○今日無事なる顔を見ることを得て何か詐りか喜ばしからんまた彼男も父母の恙なき顔を見れば定めて大に喜ぶべし



彼船の堅固なる船にて風雨に逢ふとも破損なく無難に歸り來れり船中の人々の皆此船を添く思ふなるべし

人々の外國に行くの學問或の貿易をなして我

國の利益をなさんことを欲するがゆゑなり」  
 総て鳥の嘴の長きものと短きものとあり○此嘴にて食物を啄む○鳥  
 に穀物を食するものと魚又の蟲を食するものとあり○鳥の目の面  
 の両側にあるゆゑ一時に兩方を見ることを得るなり○林中に遊ぶ鳥  
 を林禽といひ水上に遊ぶ鳥を水禽といふ○鳥  
 の足に四指ありて三指の前一指の後にあり  
 然れども啄木鳥類の前後各二指ありて能く大  
 木に上下し樹皮の中に住む蟲を搜し食す」  
 此人の驚きたる風情あり是は何故なりや○何  
 故なることを知らず○此人の久しき以前に遠  
 方に行きて今我郷に歸り來れるに昔住みたりし家の變りたるを見て  
 驚けるなり  
 さて此家の斯く變りたる所以を話し聞かすべし



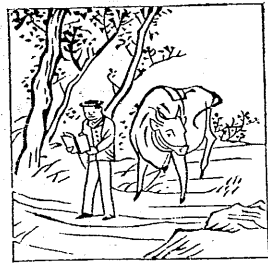
此人の家を出でたる後近隣に一人の小兒ありしが此小兒の至りて悪  
 しきものにてある日戯に紙を焼きて遊べるに其火忽家の障子に燃え  
 つき終に此家まで焼け失せたり○されば今此人我家に歸り來りても  
 未だ妻子の行きたる所をも知ること能はずゆゑに悲み歎くなり  
 今此人の家の焼けたる時の狀を圖して示さん  
 ○火と烟との家の窓より吹出づる所を見よ○  
 又家に懸けたる梯子あり○梯子に上りて火を  
 消さんとする人あり○多くの人の囀筒にて頻  
 に水を注げり  
 然れども火猶消えずして家終に焼け落ちたる  
 ゆゑこの家の人々皆逃げ去れるなり  
 されば小兒の火を弄ぶべからず一度過つ時の家をも倉をも失ひ甚し  
 きに至りては其身をも失ふことあるものなり」



此圖に書きたるの柔和なる牛にして此小兒に隨ひ徐に歩めり此小兒の今牧場に牛を曳き行く所なり○此小兒の何ゆゑに歩みながら書を讀むや此小兒の其性極めて賢く常に學問することを好めども家貧しきゆゑに學校に入ることはすして日々牧場に行くなり然れども學問の志深きに因りて道を行く間も書を讀むなり又牧場に至りても休む間の書を見



ざることをなし○此の如き小兒の他日必人にまさりて貴き人となるべし  
 惡しき小兒の日々學校に行くも雖能く勉強せずして遊ぶことのみを好むゆゑ後に愚なる者となりて貧賤に其身を終るべし  
 雲雀巢を麥島の間に造りて雛を育てたり○麥



の已に熟して刈るべき時に至りたるに雛の未だ自由に飛ぶこと能はず一日親鳥食を求めんとて飛び去り暮に及びて歸り來れば雛告げて今日此島主なる農夫其子と共に來りて明日の近隣の人を雇ひて此麥を刈り取らんとて歸れりと云ふ親鳥聞きて彼れ近隣の人を雇はんとすならば未だ急に刈取るべからず明日の此處にありとも恐るゝに足らずといひ其翌日も亦食を求めんとて飛び去りたりかくて日の暮るゝ頃親鳥歸り來れば雛又告げて今日も農夫其子と共に來りしが近隣の人と同じく已が作りたる麥を刈るに暇あらざれば明日の明友親族を頼みて刈り取らんとて歸れりと云ふ親鳥の彼れ他人を頼むの心あらば明日も憂ふるに足らずと云へりさて其翌日親鳥例の如く飛去りて歸り來るに雛の云ふ今日の農夫父子來りてかく麥の熟せるうへの最早他人の力を待つに暇あらず明日の自刈り取るべしとて歸れりと云へり

親鳥のこれを開きて然らば我等も疾く此處を立ち去るべし農夫が自  
刈り取らんと決したる等への必日を延ばすべからずといへりどぞ  
親鳥の言實に理あり他人に依りて事を成さんとする者も恐るゝに足  
らざれども自爲さんと決する時、須臾も猶豫せざるべければなりさ  
れば人々皆自爲さんことを志して他人の力をば頼むべからず

第五

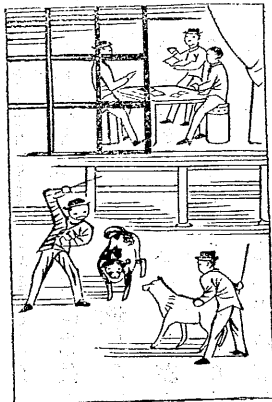
今花園に善き種子を蒔きて善き植物を生せし  
め美しき花を開かしめんとするに園中に蔓れ  
る雑草を抜き取らざるときは蒔きたる種子を  
害して生長すること能わざらしむ  
今此處に花園の雑草を抜き去る圖を出だして  
以てこれを示さん  
地のもよきものなれども善き種子を蒔かさ



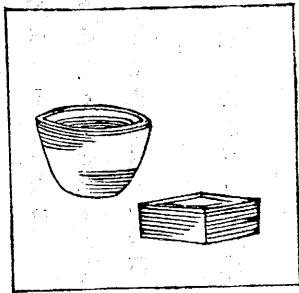
ればよき植物を生じ美しき花を開くこと能はず又芽既に萌出でたる  
とき、能く培養せざれば生長すること能はず雑草のこれに反して種  
子を蒔かざれども自生長しこれを抜き去らざれば大に蔓りて善き植  
物を害し終にこれを枯らし盡すに至るべし  
人の心のもよきものなれども善き教を聞きてこれに従はざれば善  
き人と成り難し教師の教、即我心に種子を蒔くに同じ故に心を用ゐ  
てこれを育ひ能く成長せしむべし然れども不正の心の生じ易きこと  
雑草の如くなれば心に蒔きたる善き種子を害すべきもの、勉めてこ  
れを抜き去らすばあるべからずもしこれを抜き去ることを怠りて成  
長せしむるときは終にの中に萌せる良心を害してこれを枯らし盡す  
に至るべし

汝等善き人とならんことを欲せば此人の雑草を抜き去るが如く勉め  
て不正の心を抜き去るべし」

爰に圓き器と四角なる器とに入れたる水あり  
 もど水は同じけれども其器の形に由りて或圓  
 く或四角なる形となれり  
 人も小兒の時の此水の如し善き友に交りて善  
 きことを見聞けば善き人となり又惡しき友に  
 交りて惡しきことのみを見聞けば惡しき人と  
 なるなり」



家の内外に數多の小兒ありて其遊ぶ  
 わざの各異なるを見るべし家の内な  
 る小兒の日々學校にて學びたる所を  
 家に歸りて其友と互に問答してこれ  
 を樂とす此等の他日必賢き人となる  
 べし又外に集まり遊べる小兒の學校



にも行かざる者を見わけて犬を噛み合せ棒を打擲り無益の遊のみをな  
 せり此等の後日必愚なるものとなるべし汝等賢き人とならんと思は  
 ば能く心を用ゐて常に善き友と交り必惡しき小兒等と遊ぶべからず  
 汝等事の正しからざるを知るべきいとひ他日利あること、思ふと  
 る決して行ふべからず又惡しき業をば假にも  
 心に行はんことを思ふべからず若し心に行は  
 んことを思ふときは縦令事に出さずとも既  
 に行ひたるに同じと知るべし  
 凡て惡事の虚言より始まるものなりされば暫  
 く其身に利益ありとも決して虚言すべからず  
 虚言を以て得たる利益の他人の物を盗みたると同じく終に其身の  
 害となるべし



ひかし一人の男兒ありて毎に狼來れり狼來れり誰か出で、救ひ給へ

と大に呼びて途を走れりこれに眞に狼の來れるにあらす他人の出  
來りて救はんとするときに欺き得たりとて大に其人を笑ふを以て戯  
とするなり

斯くすること度々なりしがある日眞に狼來りて此男兒を食んとす  
男兒の大に呼びて狼來れり救ひ給へといへど  
も誰も亦例の虚言なるべしとてこれを救ふも  
のなかりしゆへ終に狼のために噛み殺された  
り故に平生戯にも虚言を以て人を欺くもの  
適眞實のことを話すとも信となすものあらざ  
れば常に慎むべきことならずや



此處を何如なる家なりと思ふぞ○これに書肆なり爰に三人の男あり  
帽を戴きたる二人の者の書籍を買はんがために此處に來れるなり一  
人の既に一冊の書を購入ひ得て去らんとす一人の机上の書の價を定め

居るなり

今此二人の書籍を買ふに何の爲なりや家に歸りてこれを理會し己の  
智識を増さんとすればなり書なければ智識を増すこと能はず智識無  
きとき國の利益を興すこと能はず故に志ある者の有用の書をば金  
を惜まらずしてこれを購入ふなり



此圖の男の手に持てる書を読みて其義を小兒  
に語り聞かしむる所なり○汝この小兒の能く  
心を用ゐて其話を聞くと思ふか○此小兒の心  
を用ゐて其話を聞くと見えて此男の語ること  
を深く考ふるさまなり思ふに今聞く所の此書  
の中の尤大切なる箇條なるべし○凡て教を人に受る者の決して倦怠  
の心を生ずべからず倦怠の心を生ずるときに直に其顔色に見ゆる、  
ゆゑに教ふる者も亦これを知りて懇に教訓することなしれば教を

受る者の皆此小兒の如く心を用ゐて其話を能く考ふべきことなり」

第六

汝の猫の兒を愛するか又犬の兒を愛するか○我の猫にても犬にても其遊び戯る、所を見ることを好めり

總て獸類も稚き時の小兒の如く遊び戯る、ことを好むものなり中にも猫の兒の繩又の鞠を弄びて能く戯れ遊ぶなり○然れども獸類も年老ゆれば遊び戯ることを好まず人にして年長けたる後まで遊び戯る、に耻づべきことにあらずや○されば老たる猫は其兒の戯れ遊ぶを見ることを好めども其身に觸る、ことをば喜ばざるなり○老人も小兒の遊ぶを見ることを好めども其身に觸る、ことをば喜ばざるものゆゑ小兒の遊び戯る、



ども老人の身に觸れ又其椅子机などに決して手を着くべからず

此小兒の學校にて善き生徒なり○汝の此小兒の學校にて書を讀むを聞きたりや○此頃始めてこれを聞きたり



此小兒の何の書を讀めるや○彼れの小學讀本を讀めり○其讀む所の小學讀本の何の巻なりや○彼れの巻の三を讀めり我のこの小兒の如く能く書を讀むものを好む能く書を讀むもの



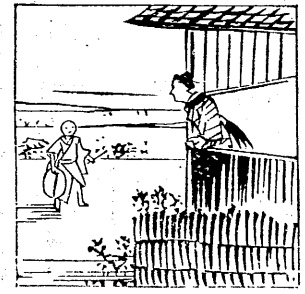
の後に善き人となればなり○若し學問もなく智慧もなくいかで善き人となることを得べき善き人となることを得ざれば他人に愛せらる、こともなく又貴ばる、こともなし」



爰に三人の小兒あり一人の机に向ひて書を読み二人の獨樂を廻りし  
て遊べり獨樂を廻りして跳り旋るゆゑに机に觸れて其上の筆筒を倒  
せり書を読み居たる小兒の心に此二人の戯れ遊ぶを何如に騒がし  
く思ひ居るならん定めて此小兒等の他處に行かんことを願ふなるべ  
し

總て人の自好まざることをば人も亦好まざる  
ものと思ひ遊び戯る、にも決して人の妨とな  
るべきことをなすべからず又自好むことの人  
も亦好むものと知りてこれをまづ人に譲るべ  
しされば古き教へにも己の欲せざる所の人に  
施すことなかれといひ又已達せんと欲せば人  
を達せしめよとも云へり

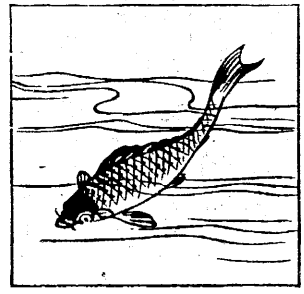
爰に遊歩に出でんとする小兒あり○汝に此小兒の善きと惡しきとを



知れりや○我の本其人となりを知らずと雖今遊歩に出でんとするに  
其母に呼び返されて速に歸り來り否む色なきを見れば善きものなる  
べしもし其母に呼び返されてこれを厭く心の色に見ゆる、に必善き  
ものにあらずと知るべし

此小兒の未だ學校に入らざるか○此小兒の五  
六歳に過ぎずと見ゆれば未だ學校に入らざ  
るべし我に此小兒の學校に入りても遊歩のみ  
を好まずして勉めて書を読み成長の後も其善  
き人たるを失はざらんことを願ふなり」

此圖に畫ける何物なりや○これ魚なり  
汝に生きたる魚を見たるべし○常にこれを見  
る汝に漁せしことあるべし何を以て漁せしや○釣と糸とを以て魚を  
釣しことあり



魚の水中に住むものゆゑに水を離るゝとき其命を保つこと能はず  
○魚に鱗と尾ありて自由に水中を游泳し又全身に鱗あるあり又な  
きあり其鱗も魚によりて大小を異にせり  
汝の魚の水中にあるときも其目のよく物を見ると思ふか○然り水中  
にてもよく物を見るなり○何を以て水中にても能く物を見ることを  
知れるや○もし水中にて物を見ること能はざる時必岩石に衝き當  
りて頭を傷くべし然らざるものよく物を見ることを得ればなり  
人の水中にて物を見ること分明ならず魚の水中にても甚分明なり  
それ魚の水中にて能く物を見るの其目人と同じからざればなり  
魚の水中に住み人の空氣中に住むゆゑに人の空氣中に能く物を見  
るの魚の水中にて能く物を見るに同じ  
今この男兒の家を辭して遠行せんとし戸前の階を降りたるゆゑ其妹  
も階を降りてこれを送り別れに臨みて互に言を贈答する所なり

兄曰汝慎みて家を守り能く其身を保つべし火を過つことなかれ病を  
生することなかれと○妹の吾が兄寒暑を犯すべからず又久しく他郷  
に止まるべからずと云ふ  
兄又云ふ予彼郷に到らば速に書を以て安否を報すべし汝も亦其安否  
を報せよ予が他郷に在る間の只汝の消息を得  
るを以て樂となすべきのみ  
汝等此二人の何如なるものと思ふや○これは  
同胞の孤なり孤との幼稚のときに両親を喪ひ  
たるものをいふ  
此二人早く両親を喪ひたるゆゑに今自身を立  
てんとするなり



今この男子の遠方へ行きて幾年妹と相見ることを得すとも文字を知  
れるゆゑに互に書簡を贈答して其安否を審にすることを得べし

もし此二人文字を知らずの何に因りてか音信を通ずることを得べき  
汝等此二人の事を見て能く文字を習ひ勉めて書簡を作ることを學ぶ  
べきなり



ひかしある家に兄弟の小兒あり兄の  
七歳にして弟の五歳なり○兄の其才  
最敏にして心も亦優しきものなり弟  
も良き性質なれども尙幼きゆゑ未世  
間の事を知らず輒もすれば過りたる  
舉動をなすことあり

ある日兄弟ともに郊外に出で、遊べるにある家の籬に小鳥の巢あり  
親鳥の人の來るに驚きて飛び去りたり兄弟の巢の中を窺ひ見るに雛  
三羽あり弟の悦びて雛を取りて持ち歸らんといふを兄のこれを止め  
て親鳥の子を愛するの父母の我等を愛し給ふに同じ今汝この雛を取  
り去らば親鳥の悲何如ならん若我家に入り來りて我等兄弟を捕へ去  
るものあらば父母の悲み給ふこと幾ならんましてや雛の親鳥の養に  
由りて生長するものにして今人の手にかゝりなば決して育つことあ  
るべからずされば今この雛を取らざるこそよけれと論しければ弟も  
其理に服して兄の教に隨ひたり

此弟の鳥の雛を取らんとするの殺生するに非れども其理を論ずれば  
かくの如くして無益に殺生するをや  
されば縦小き蟲たりども無益に殺すべからず世の理を知らざる者の  
小き蟲を殺すを以て些細の事とせり實に些細の事に似たりと雖これ  
を殺さんと思ふ心の即些細の事にあらずこの心既に慈悲を失ひたる  
なり慈悲を失ひたる心漸く長するに至らば畜に畜類を殺すのみなら  
ず終に人を殺すの大惡にも陥るべし豈恐れざるべけんや  
故に殺生を誡むるの慈善の人となるべき階にして終に類まれなる

善人ともなり身の幸福を得るに至るべし

小學讀本卷之二終

文部省御藏版書類

活版摺小本  
陸續發賣仕候間  
御購求ヲ乞フ

明治十一年二月十八日 翻刻御届  
同 年三月出版

定價金六錢

翻刻出版人

大阪府平民

柳原喜兵衛

第一大區七小區  
北久太良町四丁目十四番地

賣

備前岡山中ノ町

渡邊源米

捌

藝州廣島堀川町  
荒木豐二郎

所

筑前福岡簀子町  
古野支店

印刷 大坂安土町四丁目 柳原活版所